

2004年12月10日

Design News 268

Winter 2004

## エモーショナル・デザイン 微笑を誘うモノたちのために

著者：ドナルド・A・ノーマン／訳者：岡本明、安村通晃、伊賀隆一郎、上野晶子／発行：(株)新曜社／体裁：2004年 195×138mm 336p／価格：2,900円

ノーマンは、「誰のためのデザイン(新曜社刊)」をはじめ、多くのデザインやテクノロジーに関する本を書いているが、今回のテーマは、情動(emotion)である。彼は、今まで人間の認知の観点からデザインについて語っていたのに、認知と相反する情動を取り上げていることに疑問を持った読者もいるかもしれない。しかし、情動は、デザインにとっては無視できない重要なものである。例え

ば、ユーザーは時として「認知科学的」に厳密にデザインされた機器よりも、美しかったり、使っていて楽しい機器の方が使いやすいと感ずることがある。本書を、このような現場のデザイナーの常識みたいなことを包含しようとする彼の試みとして受け止めたい。文中では、情動を認知と分離するのではなく、「本能レベル」、「行動レベル」、「内省レベル」という3つのフレームワークによって統合し、それぞれについて対応するデザインをすべきだとしている。また、

後半では、ロボットについて言及している。ロボットのデザインを情動という観点から見るならば、人間の感情に訴える外観やインタラクション

が必要であるとし、ロボットを情動的デザインの究極の姿として捉えているのだ。以上のように、本書は、情動までを含めた人間の脳内の情報処理の観点から、デザインの問題について記述しようとしている。しかし、情動やデ



EMOTIONAL DESIGN

EMOTIONAL DESIGN

ザインは、人間の社会的、文化的活動に大きく関わっており、人間の脳内の情報処理の結果を大きく超えていると思う。ノーマンがデザインの問題に迫れば迫るほど、デザインを認知科学のフレームワークだけでは説明し切れなくなるだろう。それを一番分かっているのは、デザイナー自身であり、もっと個人の認知活動を超えてデザインを記述する必要がある。とはいえ、いつもデザインを優しいまなざしで捉え、デザインの問題について新しい視点で意欲的に取り組んでいるノーマン。彼が執筆した新しい本書をぜひ読んでほしい。

●小池星多

(武蔵工業大学環境情報学部助教/情報意匠誌)